

実習・実技、企業連携等の取り組み

授業科目名	臨床実習 I	授業時数又は単位数	160時間
実施期間	10月から12月にかけて、4週間、週5日、1日8時間実施する。 4月から10月にかけて、一日2コマ、週1回学内にて実施する。		
実習・演習等の目的及び概要	病院または施設の機能・役割を学び、以下の項目を目的に指導担当言語聴覚士の下、病院または施設で実習を行う。 ① 言語聴覚士の業務の一連の流れを体験し、必要な知識・技術を理解する。 ② 対象者に対して適切な評価を行ない、言語症状を含む全体像を把握する事の必要性を理解する。 ③ スタッフの一員としての立場を自覚するとともに、チームアプローチの重要性を理解する。 ④ 人間性豊かな言語聴覚士を目指す事の大切さを理解する。		
企業等との連携の基本方針	病院または施設において、実習指導者の資格持つ言語聴覚士がおり、学校の提示する評価実習の目的や実施に関して承諾が得られた病院または施設を選定している。		
企業等との連携内容	実習実施前に、実習担当の教員と実習受け入れ病院または施設の指導担当言語聴覚士が実習の目的および学生状況について打ち合わせを行い、実習内容を確認する。実習中に必ず訪問し、実習の進捗度、学生状況を確認し、必要に応じて実習内容の調整を行う。 実習の単位認定は病院または施設で作成された評価表をもとに、担当教員が実習前後の試験の結果と合わせて単位認定する。		
学修成果の評価方法	実習評価は規律・意欲・態度・知識・技術の5つの領域、15の評価項目を設定し、それぞれについて5段階評価を行う。それをもとにA, B, C, Dの4段階で総合評価を行い、C以上を合格とする。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
実習前教育 30日前	実習先(病院・施設)に必要な技術・知識を再度復習する。	学内
1日目	オリエンテーション	実習先 (病院または施設)
1週目	実習病院または施設の機能や役割を学ぶ。対象とする患者様や利用者様に対して、言語聴覚士がどのような業務を行っているか観察を中心に学ぶ。	"
2週目から3週目	評価をさせていただく患者様または利用者様を決定し、実習指導者の指導の下、情報収集および言語検査や高次脳検査、発達検査を行う	"
3週目から4週目	情報収集、各種検査から患者様または利用者様の評価および問題点の抽出を実習指導者の指導の下で行い、評価報告書を完成させる。	"
連携する企業等	第2北総病院、那珂川病院、エファタ会館、塩田病院、松戸リハビリテーション病院、千葉みなとリハビリテーション病院、桜ヶ丘中央病院 麻生リハビリ総合病院 等 計32施設	